

めざす児童生徒像

「やさしく」「かしこく」よりよく生きる子の育成		
・思いやりのある子	・自ら進んで学ぶ子	・あきらめずにがんばる子

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
学校重点項目 (学校で設定)	思いやりと自主性の育成	①の児童の割合が90%以上、他の項目の割合が、80%以上	① 自分にはよいところがあると思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①に関しては、教員・保護者の肯定評価の割合は2学期より高くなり、目標の90%に達したが、児童は90%に達しておらず、依然、課題が残る。</li> <li>・②③④の項目について、児童の肯定評価の割合は2学期より高く、学習指導・生徒指導の成果であると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が、児童一人一人の成長や努力、善い行いを見取っていく意識と体制を強化する。</li> <li>・3学期の行事で、一人一人に役割を持たせ、自覚と責任を育成する。</li> <li>・児童の発想や挑戦・探究心を大切に、やり逃げられるよう支援する。</li> </ul>
			② 友だちのよさを認め、助け合っている。		
			③ 自分から進んで学習している。		
			④ ものごとを最後までやり遂げようとしている。		
			⑤ クラスや学校をよくするために考えて行動している。		
			集計		
重点項目 石川県共通	業務の改善 働き方や	全ての項目の割合が、80%以上	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平準化や意識改革により、3項目で目標の80%は超えた。また、1学期より時間外勤務月100時間超の延べ人数は減ったが、依然80時間超の教員がいる。原因は、教材研究、宿題の丸付け、生徒指導の対応などである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月に行う総合的な学習のカリキュラム・マネジメントワークショップをはじめ、行事や取組の精選を図る。また、校務分掌部会でも平準化とスクラップ&amp;ビルドの視点で改善案策を話し、全体で共有する。</li> <li>・効果的な教材研究、授業準備、宿題の確認の方法等を見直し、3学期は80時間超0を目指す。</li> </ul>
			② 最終退校時刻(20:00)を守っている。(11月以降は(19:30))		
			③ 月曜最終後の時間を有効活用している。		
			集計		

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	学校研究	④の割合が、90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業を計画的に実施し、成果や課題を共有することができた。授業者は、自分で「研究授業の振り返り」を作成することで自分の授業を見つめ直し、次からの授業に生かしていくことができた。「研究授業の振り返り」を全教員に配布することで、部会研究授業など全員が参観できなかった授業についても研究成果を共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「深い学び」について、学校としての具体を共有していく。また、学びを深めるための手立てとして、話し合いのルールや思考ツールの活用法、児童に身に付けさせたい聴き方話し方などを整理していく。</li> </ul>
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究を計画的に行っている。		
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。		
			④ 教員一人一人が研究チームに属し、学校研究主題を達成すべく計画・提案を行っている。		
			集計		
			指導力の向上 授業		
	② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。				
	③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。				
	④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。				
	⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。				
	⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。				
	学力の定着 学力調査	①②④の割合が、80%以上	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①②④の割合は、1学期同様どれも80%以上を達成している。①に関しては、学力向上に向けての全校での取組を共通理解しながら進めることができた。②に関しては、研究推進委員会を中心に各部会ごとに進捗状況を確認しながら進めることができた。④に関しては、80点以上の児童の割合が漢字88%計算81%と目標を達成しているが、90点以上の児童の割合は漢字70%計算58%で基礎的な計算につまずきが見られる児童がいることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①に関しては、全校で漢字・計算に取り組んだ。全校一斉に取組目標を設定したことで、家庭の協力も得られ、徹底して行うことができた。</li> <li>④に関しては、90点以上の達成率が計算58%と低く、基礎的な計算に課題が見られるため、90点を超えることができるように繰り返し練習させ、徹底を図りたい。</li> </ul>
② 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。					
③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)					
④ 漢字・計算まとめテストの平均点がそれぞれ80点以上の児童の割合が80%以上である。					
集計					
家庭学習			家庭学習強化週間(年間5回)において、③④の児童が80%以上		
	② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。				
	③ 10分×学年の時間、毎日勉強している。				
	④ 宿題・自学を毎日提出している。				
集計					

平成31年度小松市立矢田野小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>&lt;生徒指導の3機能を活かした積極的な生徒指導を推進する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童同士が互いに認め合い温かい人間関係作りができるよう、児童集会の内容の充実と「矢田野っ子郵便」の積極的活用に取り組む。</li> <li>・児童の自己肯定感の育成のために、教職員に対し、児童のよさや頑張りを積極的に見つけ「いいね矢田野っ子」で児童に届けることを呼びかける。</li> <li>・各学級と児童議会議をつなぐ話し合い活動が充実するよう、連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童集会ではクイズやゲームを実施し、全校児童で触れ合うことができた。「矢田野っ子郵便」については、学級や個人で自主的に利用したり届くのを待ちにしたりしている様子が見られた。</li> <li>・「いいね矢田野っ子」のカードを昨年より手軽に書ける形にし、教職員に積極的に書くことを呼びかけた。1学期は全校児童の3割にメッセージを届けた。教職員の机の上にカードを配ることも試みたが、今後定期的に配布し、取り組む表を確認しながら全校児童に届くようにしなければならない。</li> <li>・児童議会議前には各学級で話し合い、意見を出してもらうようにした。また、児童議会議後には、決定したことが全校児童に伝わるように放送やポスターで知らせたりした。2学期は、決定事項に従って、全校児童が取り組んでいるか検証していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「矢田野っ子郵便」の積極的活用によって、児童同士の交流が見られた。また、縦割り活動「やたのんびっく」の実施により、6年生がリーダーとして下学年のお世話をし、各学年はそれぞれの役割を果たすことができた。それらの取り組みは、児童同士が互いに認め合い温かい人間関係づくりにおいて効果的であった。</li> <li>・「いいね矢田野っ子」では、手紙をもらった児童はとてうれしそうにしていた。児童の自己肯定感の数値的な変化は見られなかったが、その育成において有効と思われるので続けたい。また、児童には、さらに学級や学校全体の中で様々な活躍の場を設け、自己有用感の育成も図る。</li> <li>・児童会では、学校全体の問題として、ゲームのまきみや廊下の歩き方、言葉遣いなどについて解決しようとしてきた。実態を検証することによって、よりよい学級、学校を作ろうとする姿が見られるようになってきた。さらに、児童議会議と学級や委員会が定期的につながるようになる。</li> </ul>
特別支援教育	<p>&lt;個に応じた指導・支援を充実させる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解の会や校内委員会等の場を活用し、児童の特性を共通理解し、個に応じた具体的な支援策について考え、実践していく。</li> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れた授業、特性をもつ児童の保護者への声掛け等についてミニ研修会を開いて学び合う場を設ける。</li> <li>・幼保、中学校との連携を密にし長期間で子どもの育ちを支援するという視点で進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の児童理解の会では、全クラスの担任よりタイムリーに児童の抱える困難さについて情報を出し合い意見を交換することができた。定期的な校内委員会、必要に応じての支援会議も開催して児童のよりよい支援について関係職員や外部の専門家も招いて会をもつことができた。今後は、個別の支援ファイルに記入する目標・手立ての内容についても、一緒に考え共通理解を図る。</li> <li>・5月6月の児童理解では、短い時間ながら研修会を設けることができたので、教職員の参考になるものがあるかもしれないと思う。夏季休業中は、発達に凸凹のある児童への対応について学ぶ研修を予定している。</li> <li>・夏季休業中には、幼保園の保育参観を、また、中学校の教育相談担当・特別支援教育コーディネーターの先生との交流を行い主に6年生に関して早めの連携を考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターは担任が相談しやすい雰囲気づくりと専門的知見を高める努力を行うという意識を持って役割に当たること、多少は困り感を持つ児童・担任の支援をすることが出来たと思われる。</li> <li>・6年生の保健室登校児童や精神的な不安定さを抱える児童については、市教育センターとの連携および南都中学校の養教、教育相談担当の先生との事前の情報共有を夏休みと3学期に行うことができた。今後ともこまめな情報交換を行なう。</li> <li>・児童理解の会で、8月「発達凸凹とペアレントトレーニング」、10月「これはNG!子どもにやってはいけないこと」（マルチリトメント）、11月「SCによる研修会」を行った。今年度は、少し幅を広げたテーマで研修会を行うことができ、互いに学びあう機会を持つことができた。</li> <li>・幼保小の連絡会は、10回を超える参加の中行った。園の特色があり、学習の土台にも差があるのでは、今後も連絡をとりあっていく。</li> </ul>
道徳教育	<p>&lt;道徳の時間を中心として、道徳実践力の向上を図る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業力向上のために、本校の道徳重点項目の内容を中心に道徳研修会を開く。具体的には、授業前の学年間の教材研究・授業の板書交流・ノート交流を行う。</li> <li>・家庭との連携のために、学期に1回程度道徳ノート（低中学年）やワークシート等（高学年）を家に持ち帰り、道徳や児童に対する理解を深める機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業力向上のために、本校の重点項目に関する授業について、学年間で教材研究を行った。それによって、ねらいにせまる道徳の授業について考える機会となった。また、夏休みには低中学年等に分かれ、それらの授業の発問・板書・ワークシートなどについて、実際に話し合うことによって、様々な道徳の展開の仕方や手法、ポイントなどについて学びあう場となった。これらの資料はデータとして、次年度以降も活用できるようにしていく。</li> <li>・家庭との連携のために、学期に1回程度道徳ノート（低中学年）やワークシート等（高学年）を家に持ち帰り、道徳や児童に対する理解を深める機会を設けた。道徳について家庭でも興味をもってもらうきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業力向上のために、本校の重点項目に関する授業について、長期休業中に学年間で教材研究を行ったり振り返りする場を設けた。ねらいにせまる道徳の授業について考える機会となっただけでなく、教師間で指導法を学ぶ場にもなった。これらの資料や写真等は、次年度以降も活用できるように各学年の道徳ファイルに保存した。来年度も継続していきたい。</li> <li>・家庭との連携のために道徳ノート（低中学年）やワークシート等（高学年）を家に持ち帰り、道徳や児童に対する理解を深める機会を設けた。しかし、持ち帰るだけでは、どの程度保護者に読んでもらったかが分からないので、来年度は個人懇談で直接渡したり、一言コメントをもらったりしてもよい。</li> </ul>
読書教育	<p>&lt;読書の習慣化と質的向上を図る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめの本を15冊以上読むと、プラス1冊券がもらえる。クラスの半分以上の児童が、プラス券がもらえるように働きかける。</li> <li>・いしかわ学校読書の日、「やたの家庭読書の日」とし、毎月読書にかかわる宿題を出す。年に2回は、親子読書にも取り組み、保護者にも読書に関心を持ってもらう。親子読書は100%の提出を目指す。</li> <li>・良書に親しむために、各学級に「てのひら文庫」を設置し、一人10冊以上読むように働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月から「おすすめの本と手のひら文庫を読んで東京へ行こう!」のイベントを開催中である。おすすめの本を15冊達成した児童は4月末は14名、5月末は21名、6月末は51名、7月末は67名と着実に増えている。全校児童の24.5%である。さらに33冊達成の児童も11名に増えた。ウォームアップから始まる「読書玉入れ」は、赤白両対抗で行うため、プラス券を持っている児童がいる方が断然有利なので、それを機会におすすめの本を読むように働きかけたい。「やたの家庭読書の日」も、読書の宿題に取り組んできた。夏休みも全校で親子読書に取り組んでいる。「てのひら文庫」も、積極的に読んでいる児童もいる。</li> <li>・2学期は、各月で1クラスに2セットずつ置く計画を立て、朝読書に読むように声をかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめの本を15冊読んだ児童は、12月末で、全校の40%である。手のひら文庫を10冊以上読んだ児童は、全校の20%以上である。あと少しで達成できそうな児童がたくさんいるので、引き続き声をかけていく。2学期の読書玉入れも大変盛り上がり、結果は、赤組の勝利に終わった。冬休み親子読書に全校児童が取り組んだ。毎年恒例になっているので、定着させていきたい。3学期、図書館おみくじから始まり毎日多くの児童が図書館を訪れていた。次の図書館祭りで、読書ビンゴを行う予定である。いろいろな分野の本を読んでもらうことが狙いでいる。</li> <li>・12月には、不読者が0人になったことからよくわかる。これからも児童が良書に親しみ、読書の習慣化が身につくように働きかける。</li> </ul>
保健健康教育	<p>&lt;前向きな気持ちを耕し心身の健やかな成長を育む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月にアンケートを実施し、歯科検診の結果から未治療者に対し各学期1回以上の個別指導を行う。</li> <li>・児童保健委員会を中心に、給食後のブラッシング指導を行う。</li> <li>・6月に全学年に歯科保健指導を1時間以上実施するとともに、児童保健委員会が歯に関する発表を行い、学校全体で興味・関心を高める。</li> <li>・10月の学校保健委員会では、児童保健委員会や厚生委員会のみならず、専門的指導を踏まえ、学校全体を巻き込んで考える場とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会が作った歯みがきソングを全校集会で披露し、給食時間にその曲をかける。曲が流れると歯みがきソングを口ずさむ子どもも多い。また、保健委員会が歯みがきソングを各教室で行うことで、コップ歯ブラシを持って来たり、昼食後の歯みがきをしたりする児童が増えできた。1学期末アンケート結果では、給食後の歯みがきについて肯定的評価した児童が94%であった。</li> <li>・6月には、全校児童が歯科衛生士さんや養教から歯みがき指導を受けた。その後歯みがきカレンダーを付いたり、夏休みには、「げんきアップカード」で歯みがきチェックをしらせる。</li> <li>・歯科検診の後、むし歯未治療者には、保健室に呼び養教が進捗状況を聞いたり、個人懇談では、担任から保護者に声をかけたりすることで治療を促している。治療率100%を目指していく。</li> </ul>	<p>学校保健委員会では寸劇や、内野先生の講話を通して、児童や保護者に歯みがきの大切さについて啓発することができた。学期末の保護者アンケートでも、1日のブラッシング回数が増えたり、仕上げ磨きをする家庭が増えたりという傾向が見られた。むし歯治療率は12月末の時点で83.2%であった。未治療の児童のほとんどは現在通院中である（歯科医に継続的に通っていない児童は3人）ので更に声をかけて全員むし歯治療達成を目指していきたい。昼食後の歯みがきが更に、習慣化になるように保健委員会などの活動を通して、継続的に取り組みをしていきたい。</p>
体育教育	<p>&lt;目標を明確にして運動の楽しさを味わわせ、体力の向上を図る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して授業の初めに3分間走や多種目ダッシュ、ラダートレーニングといった跳の技能を向上させる運動を取り入れ、全体的な体力アップにつなげる。</li> <li>・授業では、児童同士で学び合いを深めるための手立て（課題の設定・話し合いの場・共有の場の設定・用具や場の工夫等）や、運動の楽しさを味わわせるために、できた実感できる授業設計を工夫する。</li> <li>・上記についてだけでなく、OJTで指導法や指導のポイントを全教職員と共有し、授業実践につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストにおける目標指数を、立ち幅跳びと反復横とびの平均値を県と同等か、上回ることに設定していた。スポーツテストの結果として立ち幅跳びと反復横とびの両方で県平均を下回った。今年度から多種目ダッシュとラダートレーニング始めたため、スポーツテストの結果として表れなかったが、2、3学期も継続して行い、跳の能力向上に努め、来年度のスポーツテストの結果の向上につなげる。</li> <li>・児童同士で学び合いを深めるために、話し合いの場・共有の場の設定・用具や場の工夫等、若プロやOJTで有効な指導法や指導のポイントを全職員と共有し、様々な話し合いの中で教師一人一人の意識や指導技能の向上に努め、運動の楽しさを指導している授業実践にしていきたい。そのためには、教師同士の話し合いの場を多く設定して、よりよい授業づくりを行っていくことが大切となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から提案した多種目ダッシュとラダートレーニングを行ってきたが、運動によって行うことができなかった声があった。体育の時間の始めには必ず行うことができるように声をかけていきたい。</li> <li>・児童同士の学び合いを深めること、指導のポイントなどを全職員で共有するために、体育の指導法やICT機器の活用方法といった内容でOJTを行った。まだまだ話し合いの場や共有の場が少ないと感じたので、これからは定期的に計画して設定していきたい。子ども達が運動を楽しんだり思ったり、できないことをできるようにするために子ども同士で技を高めたりできる授業づくりを目指していく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>4月・「自分にはよいところがある」の児童の回答は100%を目指してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での挨拶については年々よくなってきている。</li> <li>・業務改善を進める上で、学校行事や育誠会活動の見直しや精選をするとよい。</li> <li>・SNSとの良い付き合い方を身につけさせることが大切である。実態調査も行うとよい。</li> <li>・見守り隊の方に頼りきりになるのではなく、自分で判断し自身の安全を守ることも学んでほしい。</li> </ul> <p>8月・ほめることは大変難しいことだが、教職員もキャリアを積み判断力をつけて、児童の日々の進歩や成長をしっかり見とることが大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから、記述力や表現力が求められる。それらを段階的にしっかりと身につけてほしい。</li> <li>・自学はよい取組だと考える。今後も続けて指導してほしい。</li> <li>・学校環境、学習環境を整えていくとよい。</li> <li>・補習や個別指導等で、丁寧にあてていただきありがたい。</li> <li>・学習したことを実生活で活かす経験を積んでほしい。</li> <li>・言葉遣いを正しく使え、きれいな言葉遣いができるようにしたい。会話の中で、略して話すことが多い傾向にある。</li> <li>・知識を「どう使うか」が課題である。基礎基本の習得と思考力や表現力の育成を図ってほしい。また、これからはデータを読みとる力も必要である。</li> <li>・時代の変化を見据えた教育が求められる。学校ばかりで負うのではなく、家庭や地域で役割分担していけるとよい。（金銭教育・スマホの活用等）</li> <li>・挨拶の声がやや小さい。規律や規範を大切にしながらも、子供達が思いっきり楽しさや嬉しさを表現できる雰囲気をつくってほしい。</li> </ul>		